



# 麦の郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2018

ソーシャルファームビネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 フ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎベース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637  
〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



## 謹賀新年

あけまして  
おめでとう

くろしお作業所  
「書き初め」 1.5 (金)



ハートフルハウス 創  
「山崎邸もちつき大会」 12.23 (土)



はぐるま共同作業所 和の社  
「わたしの今年の目標発表会」 1. 4 (木)

### 私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつなぐを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



# 明けましておめでとうございませう。



社会福祉法人  
一麦会・麦の郷  
理事長 田中 秀樹

新しい年を迎えるにあたって、これまでの支援、ご協力に対して心よりお礼を申し上げます。

昨年は40周年という節目を迎え、これまでの麦の郷をふりかえる年となりました。今年は第3期の「笑顔と元気」麦の郷5か年プランの作成の年になっています。

医療、福祉などを取り巻く現状は厳しくなってきたおり、生活保護、給食費や送迎費などが減算されようとしており、身近な生活に迫ってきています。同じ子どもたちでも保育所と発達支援センターの間にも格差が生まれています。また高齢期障害者の健康や生活の問題、子ども・



若者の貧困の問題など課題が山積しています。こうした麦の郷の課題に向き合っていく実行できるプランになるように、議論を深めていきたいと思ひます。

一昨年8月から「わかやま子ども・若者の貧困問題を考えるネットワーク会議」が、麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所を事務局として始まりました。ホームレスの支援活動、子ども食堂、養護施設や里親の課題、学校での子どもの貧困問題、弁護士会での活動、和歌山県の支援策など2カ月に1回ペースで学習会が続いています。参加者は医療、教育、福祉などの関係者ですが、子どもを取りまく環境は厳しさが増えています。状況が見えにくく手の届かないもどかしさを感じながらも、こうした関係者の地道な努力によって少なからず子ども若者への支援につながっています。直面する高齢期障害者などの課題についても、地道に支援をつづけている個人や事業所と連携することによって道が開けるように思ひます。

単独では困難なことでも関係者や意志のある人との「協同」で、少しでも社会に貢献できることにつながっていくと思ひます。そのため



POONKK  
坂上 加那子

チンドンを頑張ってお金をためて旅行に行きたい。  
ダイエットもがんばるー！



むぎひーす  
植村 昌一

今年も絵を描くのを頑張っていきたいと思ひます。

お母さんも新しい病院に変わってよかったです。今年もよろしくお願ひします。



POONKK  
宮本 あかね

夢は（自分が入っている）やっちゃんチームの「響」と大好きな宝塚の柚希礼音（ゆずきれおん）ちゃんとの共演！今年は無理なく自分のペースでがんばりたい。



ソーシャルファームビネル  
宮本 潤

今年も年男です。島倉千代子さんの歌のように人生いろいろありました。

さて、文章を書くという事はその人の性格も出ますし、小技を使うのは料理を作る時の各家庭の隠し味と同じかなと思ひます。世界には約8000語あるといわれており、これからは異文化交流の時代になってきますが、どの言語であれ、書き手は常に読み手にとって真剣勝負だと思ひます。ですから自分も真剣勝負で書いて

麦の郷は努力を続けていきたいと思ひます。今後とも麦の郷と一緒に歩んでいただけたことをお願ひ申し上げます。



## 麦の郷の年男・年女 今年の抱負



けいじん舎  
千川 公彦

こころごと!!

いきたいです。



けいじん舎  
栗本 いさ子

59年間、いろいろありました。人生のひと通りの行事を通過したので、世の中の酸いも甘いも理解できるこの頃です。朝めざめると…又今日も生かさせていただけます。感謝。

それとどんな事が起こっても「私だけ…」じゃないみんな同じ。初めて出くわす事はみんな初めてなのです。この気持ちをもつて送ります。



### 日本精神保健福祉連盟 会長表彰受賞

麦の郷に入職し18年になりますが、たくさんのおみなさんの支えがあったことや、麦の郷の理念が自分自身の思いと合致していることなど、ありがたいことが重なってここまで来させていただけたと痛感しています。紀の川生活支援センターでの日々の相談業務、家族会活動、広がりネットワークや自立支援協議会を始めとした地域一体となった活動…どれも地域の支えや連携がなければできなかったことばかりです。

そんな中、このたび日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞と聞いた時、このような表彰があることも知らず、ましてや何もわからず地域のたくさんの人に支えてもらってばかりの私がいまだくことはできない、と恐縮するやら緊張するやら…。そんな気持ちのまま、10月に大津市で開かれた第65回精神保健福祉全国大会で表彰状をいただいてきました。そして先日、那賀圏域の人たちを中心に笑顔いっぱいのお祝いを開いてくださいました。私の方こそみなさんに『、いつもありがとう』



とうやてえの会』を開かせていただかないといけないのに…と思いつつも、感謝に堪えませんでした。

麦の郷に入職する時、現理事長に「どんな仕事ですか？」と聞くと、「今まで同様、地域を耕す仕事や。」と答えてくれたのですが、あまりに漠然としていて当時はその意味がわかりませんでした。しかし、今となれば、なるほどどちらも『地域を耕すこと』なのだと思えます。私は、麦の郷入職までの13年ほど、演劇鑑賞や自主活動を通して子どもたちの心豊かな成長を願って活動する『なが子ども劇場』の事務局に携わっていました。この子ども支援の活動も含めて表彰していただけたと知り、たくさんの人たちとともに30年ほど『地域を耕すこと』の一端を担わせていただけたことは私にとっての財産です。



いろいろな活動とともにし、支えてくださったみなさんのおかげで、年女となった昨年も「むぎの郷プラン」同様、笑顔と元気で過ごすことができました。改めて、「ありがとう」ございました。そして、これからもどうぞよろしく願います。」

(麦の郷紀の川生活支援センター 藤本 綾子)

成人期の障害者支援事業所を実際に見学することで、いろいろな立場の人が一緒に事業所の見学をすることで学びと交流ができました。

14日におこなわれた山本耕平先生による職員研修会・交流会「人の値打ちってなあに？」相模原事件から1年」は、優生思想を感じさせる社会の中で支援者として方向性を学び、思いを話し合い、共有する場となりました。

そして24日の西宮市社協の玉木幸則さんによる講演は、当事者の声から実現しました。NHK Eテレ「バリバラ」のコメントーターとして、当事者であり、また支援者でもある玉木さんの体験に基づく言葉は、わかりやすくみなさんの心に響いたことのように。

「広がりネットワーク」は多くの人のつながりを感じさせる取り組みでした。これからも多くの人がつながることで、誰もが安心して暮らせる地域となることを願っています。

(麦の郷紀の川生活支援センター 宮本 英和)



### 和歌山高次脳機能障害 しほびこリーディング講習会

11月23日(木)、和歌山県子ども・女性・障害

者相談センターの多目的ホールにて、高次脳機能障害リハビリテーション講習会が行われました。

当初予定していた9月17日(日)が台風の影響で延期になり、急遽日程を変更しての開催でしたが、約150名の方々が来てくださいました。

第一部は、和歌山県立医科大学附属病院 脳神経外科の西林宏起氏を講師としてお招きし「高次脳機能障害の理解とリハビリテーション」についてお話しいただきました。



第二部には、高次脳機能障害当事者のディジュリドゥ奏者で画家でもあるGOMA氏をお招きして、トークとミニライブをしていただきました。トークは、和歌山県高齢者生活協同組合常務理事の内田嘉高氏が聞き手となり、当事者の体験や苦悩をお話ししてくださいました。その後のミニライブでは、オーストラリア先住民族の管楽器であるディジュリドゥを演奏していただいたのですが庄巻の一言に引き、その音色に誰もが引き込まれていったと思います。

第三部は家族交流会でしたが、家族の方々だけでなく支援機関の関係者も加わり、様々な情報や意見の交換が行われ、閉会後も話が尽きないほどでした。

見えない障害と言われている高次脳機能障害ですが、支援のあり方や、その人の生き方を学ぶ大きな講習会になったと思います、ありがとうございました。(麦の郷印刷 赤井 洋揮)

### 第17弾 『障害者週間 広がりネットワーク』

「障害者週間広がりネットワーク」17回目となる今回の全体テーマは「障害のある人の人権について」相模原事件から1年、改めて考えよう」です。事件に関し、実行委員会内の当事者・家族・支援者の立場から話し合い、障害者の基本的な人権や生存権を否定することにつながる風潮を改めて感じました。その話し合いをもとに職員研修会・交流会、講演会など6つのイベントが決まりました。

12月6日の講演「あなたにも出来る地域福祉イギリスとフィンランドから見れば日本」は、それぞれの国の地域福祉について習慣や価値観の違いから捉え、現地での体験を報告する講演となりました。

7日に「みんなの願いを語る会」親の交流会〜が山崎邸でおこなわれました。防災をテーマに避難所での事例や普段からの災害に対する意識など、障害児者の災害対応についての意見を交換し、交流会では障害のある子どもとの親としての経験などを語り合いました。年代や背景は異なっても同じ思いの人たちが語り合う場の大切さを感じました。

「広がりアートプロジェクト」は7日から2日間、紀の川市役所で開催されました。障害のある人たちが自由な発想で作り上げたアート作品の展示に、のべ140名の方が来場されました。

12日は、きのかわ福祉会の施設見学でした。

### \*むぎ・かわくしポート\*

うちの作業所には嘱託医が月に1度の定期診察に来られます。仲間の体調・病気やけがの状態等を診ていただくのですが、ある日、職員の一人が仲間と一緒にドクターのもとへ。お尻に発疹のようなものがあり気になるので見てほしいと心配そうに連れてきたので診ていただくことになりました。

症状は大したものではなく、ドクターは笑いながら「大丈夫です」と言ってくれました。あまりの軽い状態に周囲の職員は「そんなのわざわざ先生に診てもらうのもなあ」という空気の中、ドクターが「すごいですねー」と言ってくれました。「えっ」と周囲の職員。ドクターが「そんな細かいところにまで気配りされる職員さんがいるこの作業所に、毎日通えているOさん(お尻にできものができている仲間の方)は幸せですね」という言葉にハッとさせられました。

たわいのない出来事かもしれませんが、普段から少しの変化にも気付けることが大切だという実践が少なからずできているのかなあと思うと、微笑ましくも自信の持てたひとときでした。

(サポートセンター麦の郷 川村 ゆり)



## 立山・黒部観光ツアー

はぐるま共同作業所 ラ・テール

10月13日から1泊2日で黒部ダムヘラ・テール旅行28名で行って来ました。長い道のりサービスエリアでお小遣いももらい昼食、わさび園ではわさびアイスクリームなど…夜の宴会ではご馳走を堪能し…食べてばかり(笑)そして時間が足りないほどカラオケを楽しみあつという間の1日でした。

そして次の日電気で走るここにしかない珍しいトロリーバスに乗り、3000m級の山々が連なる立山連峰のすばらしい景色と日本一の高さから噴き上がるダムの放水も虹がでて綺麗ですごく迫力がありました。みんなも普段と違っていきいきとした表情で目を輝かせて感動して楽しそうでした。

でも帰りは行きと違い、疲れてほぼ爆睡でした。(笑)

4月から異動してきた私にとっては、まだ迷惑ばかりかけているのでみんなと絆を深めるよいチャンス、思い出となりました。

ありがとうございました。(松田 康代)



## 大阪・淡路島旅行12月1日～2日

はぐるま共同作業所

本年旅行として吉本新喜劇、淡路震災記念館、アサヒ飲料明石工場を巡って来ました。吉本ですが、バスガイドさん曰く「会場から離れた駐車場まで笑い声が聞こえましたよ」—我々がその時間どう過ごしたかお判りでしょう。初日のハイライトは宴会。美食にカラオケと歓声。終幕が惜しい程の盛り。翌日は震災記念館を始め見識を深め、お土産片手に帰和。楽しさゆえにあつという間の二日間でしたが、皆で過ごした思い出は一生ものですね。

(辻岡 裕)



# 旅行特集

## レッツゴー！神戸！！

むぎピース



11月22日(水)神戸フルーツフラワーパークと麒麟ビアパーク神戸三田に日帰りバスに乗って行って来ました!!曇り空で少し寒かったのですが、外での行動の時は雨は降らず、傘を使わず回ることが出来ました。

フルーツフラワーパークでは公園散策とパイキングでたくさん食べて、麒麟ビアパークではビールの工場見学をした後、試飲してお腹いっぱいになり、バスでカラオケをして大満足!みんな楽しめました!!帰ってきたばかりですが来年の旅行を楽しみにしているみなさんです。またみんな楽しみたいと思います♪♪ (岡本 悠)

## 恒例の一泊旅行に行ってきました!

はぐるま共同作業所 和の杜



11月10日・11日の2日間にかけて、恒例の旅行に行ってきました。今年もなかまの自治会が中心になり会議をして、行先は淡路島&徳島県と相成りました。鳴門の渦潮は残念ながら潮の都合により見れませんでした。有名どころの「吹き戻しの里」や「大原美術館」から、旅行会社も知らない「とくしまファミリーランド」というローカルスポットまで堪能し、もちろん徳島B級グルメも味わってまいりました。また次回の旅行が楽しみです! (湊 翔平)

## 淡路島と神戸に行ってきました～!

くろしお作業所



ここ数年2グループに分かれての取り組みになっていて、今年は淡路島で吹き戻しづくりの体験と、神戸どうぶつ王国に行ってきました。(「吹き戻し」って知っていますか?昔ながらのおもちゃなのですが、また調べてみてください。)

神戸どうぶつ王国では、たくさんの動物がいて、カピバラやカンガルーにエサをあげたり、目の前にラクダがいたり。その動物の大きさにビックリしている仲間たちの姿がとても印象的でした。(道幸 美也子)

## ソーシャルファームピネル旅行2017

ソーシャルファームピネル

10月28～29日、石川県の山代温泉へ一泊旅行に行ってきました。天気は台風の影響であいにくの雨…でしたが、雨に負けずに楽しむことができました。

1日目は長浜のフィギュアミュージアムと自動車博物館。夜は宴会(もちろんカラオケあり)に温泉。2日目は近江町市場と兼六園へ。みんな興味があるところは違うようでしたが、それぞれ楽しんでいました。

(城 祥子)



## ポズック楽団 全国進出へ

Po-zkk



今年は県内だけではなく口コミやSNSの拡散のおかげで関西を中心に大阪、兵庫、奈良、三重などに呼ばれるようになりました。

奈良では初の一泊での仕事。家族と離れるので事前にお泊り会もして、普段の家での様子などいろんな気づきもありました。

みんな思ったよりしっかりしていて感心しました。そしてこういう経験から少しずつ自信につながりプロ意識が芽生えてきたようで、長い拘束時間にも文句1つ言わずに楽しんでる姿に成長を感じています。ショーのクオリティも格段に上がってプロのパフォーマンス集団になってきています。

2018年も5月までオファーが入っていて県内外多くの場所で公演出来る事が楽しみです。(奥野 亮平)



### 第16回和歌山県作業所問題研究交流集会

## 明日への助走

～初心に戻って見つめなおそう～

2018年2月10日(土)

和歌山県情報交流センター Big・u

〒646-0011 和歌山県田辺市新庄町3353-9

電話 0739-26-4111

- 9:30 開場・受付
- 10:00 開会式 主催者あいさつ
- 10:15 ①全体講演 憲法を考える(仮題) 山崎和友氏
- ②映画上映 ふるさとをください
- 12:00 昼食休憩
- 13:00 分科会
- 16:30 閉会

参加費：一般2,000円 仲間100円 介助者500円

※弁当の注文は別途600円要ります

申込締切：2018年1月31日(水)

#### ■分科会■

- 第1分科会 高次脳機能障害の現場と実践
- 第2分科会 グループホームにおける  
中軽度の仲間の暮らしの支援
- 第3分科会 就労Aに求められるもの
- 第4分科会 改正障害者総合支援法の  
現時点での動向および意見交流
- 第5分科会 自立訓練の気づきとふりかえり
- 第6分科会 仲間に寄り添う支援とは  
～作業所における相談支援～
- 第7分科会 B型事業所のありかた
- 第8分科会 生活介護  
～障害の重い仲間の「はたらく」とは？
- 第9分科会 放課後等デイサービス  
将来に向けた生活の力をつける活動
- 第10分科会 仲間の交流会  
もし～あなたならどうしますか？

※詳しくはわされん会員事業所に配布予定の  
開催要項(申込書つき)をご確認ください

主催：和歌山県共同作業所連絡会(わされん)

## 麦の郷の図書室が開設します



麦の郷の2階室一部に和歌山県の「公共施設等木造木質化支援補助金」を活用して、図書室を開設しました。和歌山県の木材で本棚、床を整備し木の香りいっぱいの図書室となりました。本棚製作や床張りは関係者やけいじん舎の仲間の協力を得たものです。今は本の収集に力をいれていますが、これまでの蔵書やみなさんのご協力で福祉分野をはじめいろいろな分野の本が寄せられ充実してきています。これまで読んで感動した本や家で眠っている本を紹介や寄贈してもらえたらありがたいです。図書館とまではいかなくても関心をもってもらえるもの

になればと思っています。人は一生かけて読める本の数は3000冊程度と言われていて、世の中には数限りない本があります。本の魅力を知ってもらい、いい本との出会いにつながればと思います。

この図書室は誰でも利用できます。貸出ノートを用意しますので、本の名前、自分の名前、借りた日、返した日を記入してください。いつでも利用できます。ぜひ立ち寄ってください。(1月15日からの利用になります。)

(田中 秀樹)



第41回  
障害児者家族の  
つながりを広める

# 文化祭

テーマ  
つなげようみんなの  
はぐくもうみんなの絆

和歌山県立体育館  
2018年3/4日  
10:00~15:00

入場無料 参加費約 3000円

- ・スタート時間(10:00~13:30)
- ・受付時間(10:00~14:00)
- ・エントランス 観覧券(14:30~)
- ・中庭観覧(10:30~15:00)
- ・C区画(10:30~14:00)
- ・自主販売/義理店/バー
- ・体験コーナー/動画コーナー
- ・受付カウンター/スタッフセンター

主催：和歌山県障害児者家族のつながりを広める実行委員会  
TEL: 073-941-0322 FAX: 073-941-0323

会場：和歌山県立体育館(和歌山県和歌山市大浜町1-1) 和歌山県立体育館(和歌山県和歌山市大浜町1-1) 和歌山県立体育館(和歌山県和歌山市大浜町1-1)